

糖尿病療養指導カードシステム



公益社団法人 日本糖尿病協会

1. 糖尿病療養指導カードシステムとは



現在、日本人の糖尿病患者は950万人、予備群が1100万人と言われており、糖尿病治療・予防対策は保険医療上喫緊の課題となっています。

糖尿病の治療の根本は患者教育ですが、我が国には**糖尿病専門医が少ない**うえに標準的な糖尿病教育支援ツールがなく、**各医療施設によって療養指導レベルにばらつき**があるのが現状です。

また、糖尿病療養指導の現状は、一部の教育入院を除いては、糖尿病教室の参加や栄養指導といった**散発的な指導に終始**することが少なくありません。

効果的な糖尿病療養指導には、適切なタイミングで適切な方法による適切な内容の指導が求められ、**患者さんごとに指導計画を策定して個々の進捗に応じて指導を評価し、臨機応変な指導計画の更新が望まれています。**

そこで日本糖尿病協会は、指導の個別性や継続性に重点を置き、使いやすく、さらに指導を受ける患者さんにとってもわかりやすく治療に前向きな気持ちになれるような教育用資材を開発して、**糖尿病患者教育の均てん化・標準化に貢献**したいと考えました。

それが、、、 **糖尿病療養指導カードシステム** です！！

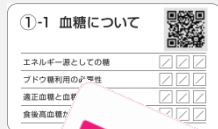
2. カードシステムの仕組み①



糖尿病療養指導カードはひとりひとり異なる糖尿病患者さんの病状や生活環境など、患者さんの特徴を考えながら、**79種類のカード**を使用して**指導項目を組み合わせ**、最も適した指導プランを作ることができる新しい療養指導ツールです。**71種類の指導箋**が的確な指導をサポートします。

カードは、糖尿病療養指導に必要な項目を「疾病概念」「急性合併症」「慢性合併症」など13の大きなテーマに分け、各テーマに必要な指導内容を1枚ずつカード化し、それが79種類に分かれています。**79枚のカード裏面にはその項目において押さえなければいけない指導トピックチェックリスト形式で掲載**されています。

そして、カードには、指導トピックを患者さんに説明するための資料として、それぞれのカードに対応する指導箋が用意されています。



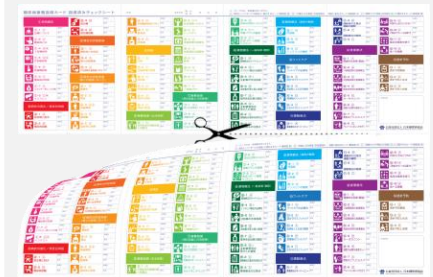
カード
79種類・名刺サイズ



指導箋
71種類・A4サイズ



使い方マニュアル



チェックシート

3. カードシステムの仕組み②



患者さんの特徴を知る

療養指導プランのタイプを選び
プランを患者さんにあわせ自在にカスタマイズ

その日の指導カードをチェックし
指導箋を専用ページからプリント




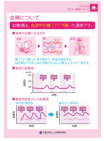

他スタッフと情報を共有
次の指導に活かす

カード裏面に指導済み項目をチェック
患者さん毎にバインダーなどで管理

指導箋を使って指導
患者さんに渡して知識の
定着に活かす

4. カードを使うことによる効果



 <p>①-1 血糖について</p> <table border="1"><tr><td>エネルギー源としての糖</td><td><input checked="" type="checkbox"/></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr><tr><td>ブドウ糖利用の必要性</td><td><input checked="" type="checkbox"/></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr><tr><td>適正血糖と血糖変動</td><td><input checked="" type="checkbox"/></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr><tr><td>血糖高血糖から持続高血糖へ</td><td><input checked="" type="checkbox"/></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr></table>	エネルギー源としての糖	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ブドウ糖利用の必要性	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	適正血糖と血糖変動	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	血糖高血糖から持続高血糖へ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<p>療養指導項目を1枚の指導カードに収まる程度に細分化して、対象患者に必要な不可欠な知識の伝達をスリム化し、療養指導上キーとなる情報の取得や患者心理および実践状況の把握を平行して実施することで、効果的な糖尿病療養指導が目指せます。</p>
エネルギー源としての糖	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>											
ブドウ糖利用の必要性	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>											
適正血糖と血糖変動	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>											
血糖高血糖から持続高血糖へ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>											
	<p>療養指導カードはスタッフ間で指導実施項目が明確化し共有されるため、経験の浅い医療スタッフでも効率よく系統だった療養指導が実施可能となり、指導水準の均一化が図れます。</p> <p>そして、一つの完結した学習項目の集合体であるため、様々なシチュエーションや、患者さんのニーズに合わせた療養指導が可能となります。</p>												
	<p>指導者の方はカード裏面のQRコードから指導箋の内容をいつでも閲覧でき、指導者側の知識向上にも役立ちます。</p>												
	<p>(患者さんにとっても・・・) プリントした指導箋は、患者さんに渡します。これを集めればその方に最適な教育ツールが完成します。患者さんはいつでも過去の指導内容を振り返ることができ、長期間にわたる治療をサポートします。</p>												
	<p>糖尿病連携手帳第3版では、新たに療養指導カードのページが加わり、指導済みの項目を記入できるようになりました。</p> <p>また、専用のチェックシートを患者さんにお渡しし、糖尿病連携手帳に挟んで来院時にお持ちいただければ、より視覚的に指導済み項目を確認できます。</p> <p>連携手帳を交換する際は、チェックシートのみを新しい手帳に移せば指導履歴をそのまま引き継ぐことができ、継続的な療養指導を行うことが可能になります。</p>												